

医療法人社団翠明会 山王病院  
〒263-0002 千葉県千葉市稲毛区山王町166-2  
[診療時間やアクセス方法等の情報はこちら](#)

保有する病床と機能区分の選択状況(2015(平成27)年7月1日時点の機能)

病床の機能区分	病床名						
高度急性期							
急性期	2階本館・5	2階新館	3階本館	4階本館	3階センター	4階センター	8階センター
回復期							
慢性期							
休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定、無回答							

保有する病床と機能区分の選択状況(6年が経過した日における病床の機能の予定)

病床の機能区分	病床名						
高度急性期							
急性期	2階本館・5	2階新館	3階本館	4階本館	3階センター	4階センター	8階センター
回復期							
慢性期							
休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定、無回答							

分野ごとの情報

◆基本情報  
(職員配置、届出の状況など)

- ・[病床の状況](#)
- ・[診療科](#)
- ・[入院基本料・特定入院料及び届出病床数](#)
- ・[DPC医療機関群の種類](#)
- ・[救急告示病院、二次救急医療施設、三次救急医療施設の告示・認定の有無](#)
- ・[在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院の届出状況](#)
- ・[職員数の状況](#)
- ・[退院調整部門の設置状況](#)
- ・[医療機器の台数](#)

◆患者の入退院等の状況

- ・[入院患者の状況\(年間\)](#)
- ・[入院患者の状況\(月間／入院前の場所・退院先の場所の状況\)](#)
- ・[退院後に在宅医療を必要とする患者の状況](#)
- ・[看取りを行った患者数](#)

◆医療内容に関する情報  
(手術、リハビリテーションの実施状況など)

- ・[手術の状況](#)
- ・[がん、脳卒中、心筋梗塞、分枝、精神医療への対応状況](#)
- ・[重症患者への対応状況](#)
- ・[救急医療の実施状況](#)
- ・[急性期後の支援、在宅復帰の支援の状況](#)
- ・[全身管理の状況](#)
- ・[リハビリテーションの実施状況](#)
- ・[長期療養患者の受入状況](#)
- ・[重度の障害児等の受入状況](#)

(留意事項)

○公表している項目の中には、診療報酬制度上で定められた診療行為の定義に従って集計した項目が多くありますが、その項目の解説については、医療関係者以外の方にも分かりやすい表現とする趣旨で記載しているため、診療報酬制度上の定義を詳細には記載していない場合があります。

○また、公表している項目の中には、個人情報保護の観点から、1以上10未満の値を「＊」で秘匿している項目があります。

◆基本情報（職員配置、雇出の状況など）

病床の状況

(項目の解説)			施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
一般 病床	許可病床	医療機関の病床(ベッド)は、法律(医療法)の許可を得た上で設置することとされており、許可を受けた病床のうち、過去1年間に実際に患者を受け入れた病床数を稼働病床数として示しています。	308床	50床	39床	56床	32床	56床	52床	23床
	上記のうち医療法上の経過措置に該当する病床数		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	稼働病床		308床	50床	39床	56床	32床	56床	52床	23床
療養 病床	許可病床	なお、病室の広さは患者一人あたり6.4平方メートル以上と定められていますが、平成13年3月1日以前に許可を受けた医療機関は、6.4平方メートル未満でも可とされており、医療法上の経過措置に該当する病床として扱われます。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	うち医療療養病床		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	うち介護療養病床		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	稼働病床	また医療法では、病床のうち、主として長期にわたり療養を必要とする患者が入院するための病床を療養病床と呼んで区分しています。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	うち医療療養病床	療養病床の中には、医療保険を適用した医療サービスを提供するのではなく、介護保険を適用した介護サービスを提供する病床もあります。前者は医療療養病床、後者は介護療養病床と呼んでいます。	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	うち介護療養病床		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
	療養病床		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床

診療科

(項目の解説)			施設全体	本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
主とする診療科		5割以上の患者を診療している診療科を、主とする診療科として示しています。5割を超える診療科がない場合は、上位3つの診療科を示しています。		-	-	-	-	-	-	-
				内科	内科	内科	内科	外科	内科	内科
				整形外科	腎臓内科	腎臓内科	腎臓内科	器外科(胃腸)	耳鼻咽喉科	外科
	複数ある場合、上位3つ			産婦人科	泌尿器科	放射線科	放射線科	整形外科	放射線科	放射線科

入院基本料・特定入院料及び届出病床数

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期 一般病棟10対1入院基本料	2階新館 急性期 一般病棟10対1入院基本料	3階本館 急性期 一般病棟10対1入院基本料	4階本館 急性期 一般病棟10対1入院基本料	3階センター 急性期 一般病棟10対1入院基本料	4階センター 急性期 一般病棟10対1入院基本料	8階センター 急性期 緩和ケア病棟入院料
算定する入院基本料・特定入院料	届出病床数		50床	39床	56床	32床	56床	52床	23床
病室単位の特入院料	届出病床数		－	－	－	－	－	－	－
病室単位の特入院料	届出病床数		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
病室単位の特入院料	届出病床数		－	－	－	－	－	－	－
病室単位の特入院料	届出病床数		0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床
介護療養病床において療養型介護療養施設サービス費等の届出あり			0床	0床	0床	0床	0床	0床	0床

※入院基本料・特定入院料ごとのレセプト件数

一般病棟7対1入院基本料	0件	特定機能病院一般病棟7対1入院基本料	0件	救命救急入院料1	0件	小児特定集中治療室管理料	0件	地域包括ケア病棟入院料1	0件	特殊疾患入院医療管理料	0件
一般病棟10対1入院基本料	409件	特定機能病院一般病棟10対1入院基本料	0件	救命救急入院料2	0件	新生児特定集中治療室管理料1	0件	地域包括ケア病棟入院料2	0件	小児入院医療管理料4	0件
一般病棟13対1入院基本料	0件	特定機能病院特定入院基本料	0件	救命救急入院料3	0件	新生児特定集中治療室管理料2	0件	特殊疾患病棟入院料1	0件	地域包括ケア入院医療管理料1	0件
一般病棟15対1入院基本料	0件	専門病院7対1入院基本料	0件	救命救急入院料4	0件	総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児）	0件	特殊疾患病棟入院料2	0件	地域包括ケア入院医療管理料2	0件
一般病棟特別入院基本料	0件	専門病院10対1入院基本料	0件	特定集中治療室管理料1	0件	総合周産期特定集中治療室管理料（新生児）	0件	緩和ケア病棟入院料	31件		
一般病棟特定入院基本料	0件	専門病院13対1入院基本料	0件	特定集中治療室管理料2	0件	新生児治療回復室入院医療管理料	0件	特定一般病棟入院料1	0件		
一般病棟入院基本料（療養病棟入院基本料1の例により算定）	0件	専門病院特定入院基本料	0件	特定集中治療室管理料3	0件	小児入院医療管理料1	0件	特定一般病棟入院料2	0件		
療養病棟入院基本料1	0件	障害者施設等7対1入院基本料	0件	特定集中治療室管理料4	0件	小児入院医療管理料2	0件	特定一般病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理）	0件		
療養病棟入院基本料2	0件	障害者施設等10対1入院基本料	0件	ハイケアユニット入院医療管理料1	0件	小児入院医療管理料3	0件	特定一般病棟入院料（療養病棟入院基本料1の例により算定）	0件		
療養病棟特別入院基本料	0件	障害者施設等13対1入院基本料	0件	ハイケアユニット入院医療管理料2	0件	回復期リハビリテーション病棟入院料1	0件	短期滞在手術等基本料2	0件		
		障害者施設等15対1入院基本料	0件	脳卒中ケアユニット入院医療管理料	0件	回復期リハビリテーション病棟入院料2	0件	短期滞在手術等基本料3	63件		
		障害者施設等特定入院基本料	0件			回復期リハビリテーション病棟入院料3	0件				

## DPC医療機関群の種類

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
DPC医療機関群の種類	DPC制度とは、急性期の入院医療を担う医療機関において、患者に対し、入院日数に応じた1日あたり定額の医療費を請求する制度です。この項目は、DPC制度の対象となる病院の特性を示すもので、特性や疾患等に応じて1日あたりの医療費の設定が異なります。Ⅰ群が大学病院本院、Ⅱ群が大学病院本院に準じる病院、Ⅲ群がそれ以外の病院であることを示します。	Ⅲ群							

## 救急告示病院、二次救急医療施設、三次救急医療施設の告示・認定の有無

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
救急告示病院の告示の有無	救急告示病院とは、事故や急病等による救急患者を救急隊が緊急に搬送する医療機関として、都道府県知事が認めた病院です。また、救急患者のうち、入院医療が必要な重症な救急患者を休日や夜間に受け入れる医療機関を二次救急医療施設といいます。さらに、二次救急では対応できない重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる医療機関を三次救急医療施設と呼びます。	有							
二次救急医療施設の認定の有無		有							
三次救急医療施設の認定の有無		無							

## 在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院の届出状況

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
在宅療養支援病院の届出の有無	在宅療養支援病院とは、24時間往診が可能な体制を確保し、また訪問看護ステーションとの連携により24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保している病院のことです。	無							
在宅療養後方支援病院の届出の有無	在宅療養後方支援病院とは、在宅医療を受けている患者の急変時に備え、緊急入院を受け入れるための病床を確保している病院です。	無							

職員数の状況

(項目の解説)			施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
看護師	常勤	(参考)理学療法士 座る、立つ、歩くなどの基本動作ができるように、身体の基本的機能の回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。筋力や関節可動域などの身体機能を改善する運動療法を行ったり、温熱、光線、電気などを用いて、痛みや循環の改善を図る物理療法を行ったりします。	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
准看護師	常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
看護補助者	常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
助産師	常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
理学療法士	常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
作業療法士	常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
言語聴覚士	常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
薬剤師	常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
臨床工学技士	常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認
	非常勤		未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認	未確認

(項目の解説)			施設全体	病棟以外の部門		
看護師	常勤	(参考)言語聴覚士 上手く話せない、声が出にくいなどのコミュニケーションや、食べ物を飲み込むなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。障壁が起きている方々を助けるために、お話を聴きながら		手術室	外来部門	その他
	非常勤			未確認	未確認	未確認
准看護師	常勤			未確認	未確認	未確認
	非常勤			未確認	未確認	未確認
看護補助者	常勤			未確認	未確認	未確認
	非常勤			未確認	未確認	未確認
助産師	常勤			未確認	未確認	未確認
	非常勤			未確認	未確認	未確認
理学療法士	常勤			未確認	未確認	未確認
	非常勤			未確認	未確認	未確認
作業療法士	常勤			未確認	未確認	未確認
	非常勤			未確認	未確認	未確認
言語聴覚士	常勤			未確認	未確認	未確認
	非常勤			未確認	未確認	未確認
薬剤師	常勤			未確認	未確認	未確認
	非常勤			未確認	未確認	未確認
臨床工学技士	常勤			未確認	未確認	未確認
	非常勤			未確認	未確認	未確認

退院調整部門の設置状況

(項目の解説)				施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
退院調整部門の有無				有							
退院調整部門に勤務する人数	医師	専従	退院調整部門とは、退院先の検討や、退院後に必要な訪問診療や訪問看護、介護サービスの紹介等を行う専門部署です。この項目は、そうした部門の設置状況と、そこで勤務する職員の人数を示します。  (参考)MSW(メディカルソーシャルワーカー) 患者・家族の心理的、社会的問題の解決、調整を支援し、社会復帰の促進を図る専門職です。	0人							
		専任		0.1人							
	看護職員	専従		0人							
		専任		0.6人							
	MSW	専従		0人							
		専任		0.0人							
	MSWのうち社会福祉士	専従		0人							
		専任		0.0人							
	事務員	専従		2人							
		専任		0.5人							
	その他	専従		0人							
		専任		0.0人							

医療機器の台数

				施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
(項目の解説)											
C T	スマ イル テ ス	64列以上	CTは、X線(放射線)を使って、身体 の断面を撮影する装置です。列の 数が多いほど、同じ範囲をより短 時間、より細かく撮影することが できます。値は医療機関が保有す る台数です。	1台							
		16列以上64列未満		1台							
		16列未満		1台							
	その他	0台									
M R I	3T以上		MRIは、主に磁気を利用して、身 体の断面を撮影する装置です。T (テスラ)は、磁気の強さを表す 単位で、値が大きいほど高画質 の画像が得られます。値は医療機 関が保有する台数です。	0台							
	1.5T以上3T未満			2台							
	1.5T未満			0台							
そ の 他	血管連続撮影装置		血管連続撮影装置は、X線では 映らない、血管の状態を撮影す るための装置です。値は医療機 関が保有する台数です。	1台							
	SPECT		SPECTは、特殊な薬剤を注射し たあとに撮影することで、体の なかの血液の分布を調べる装置 です。とくに、脳血管障害や心 疾患の診断に用いられます。値 は医療機関が保有する台数です。	1台							
	PET			0台							
	PETCT		PETCTは、診断の精度を向上 させるためにPETとCTを組み 合わせた装置です。値は医療機 関が保有する台数です。	2台							
	PETMRI		PETMRIは、診断の精度を向上 させるためにPETとMRIを組み 合わせた装置です。値は医療機 関が保有する台数です。	0台							
	強度変調放射線治療器		強度変調放射線治療器は、腫 瘍に精確に放射線を照射する装 置です。値は医療機関が保有す る台数です。	0台							
	遠隔操作式密封小線源治療装置		遠隔操作式密封小線源治療装 置は、体の内側から放射線を照 射する機能を持つ装置です。値 は医療機関が保有する台数です。	0台							

[TOPへ戻る](#)

◆患者の入退院等の状況

入院患者の状況(年間)

(項目の解説)			施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
年間	新規入棟患者数(年間)		4,525人	740人	309人	828人	347人	1,174人	994人	133人
		うち予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者	2,431人	440人	22人	313人	38人	985人	501人	132人
		うち救急医療入院の予定外入院の患者	206人	38人	48人	52人	41人	15人	12人	0人
		うち救急医療入院以外の予定外入院の患者	1,888人	262人	239人	463人	268人	174人	481人	1人
	在棟患者延べ数(年間)		69,321人	10,332人	10,835人	10,761人	8,069人	10,751人	11,839人	6,734人
	退棟患者数(年間)		4,519人	750人	307人	822人	341人	1,175人	989人	135人

入院患者の状況(月間／入院前の場所・退院先の場所の状況)

(項目の解説)			施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
1ヶ月間	新規入棟患者数(1ヶ月間)		424人	60人	26人	82人	34人	110人	99人	13人
	入棟前の場所	うち院内の他病棟からの転棟	57人	4人	0人	4人	1人	33人	8人	7人
		うち家庭からの入院	308人	40人	2人	75人	21人	77人	90人	3人
		うち他の病院、診療所からの転院	7人	3人	0人	0人	1人	0人	1人	2人
		うち介護施設、福祉施設からの入院	43人	7人	24人	0人	11人	0人	0人	1人
		うち院内の出生	3人	0人	0人	3人	0人	0人	0人	0人
		その他	6人	6人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	退棟患者数(1ヶ月間)		397人	61人	20人	77人	31人	103人	92人	13人
	退棟先の場所	うち院内の他病棟へ転棟	57人	9人	0人	3人	7人	30人	8人	0人
		うち家庭へ退院	248人	31人	0人	59人	11人	70人	76人	1人
		うち他の病院、診療所へ転院	14人	3人	2人	2人	2人	0人	5人	0人
		うち介護老人保健施設に入所	1人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		うち介護老人福祉施設に入所	4人	2人	0人	1人	1人	0人	0人	0人
		うち社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所	10人	2人	5人	1人	1人	1人	0人	0人
		うち終了(死亡退院等)	35人	3人	4人	7人	4人	2人	3人	12人
		その他	28人	11人	9人	3人	5人	0人	0人	0人

退院後に在宅医療を必要とする患者の状況

(項目の解説)			施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
退院患者数(1ヶ月間)	退院後1か月以内に自院が在宅医療を提供する予定の患者数		340人	52人	20人	74人	24人	73人	84人	13人
	退院後1か月以内に他施設が在宅医療を提供する予定の患者		4人	2人	1人	0人	0人	0人	1人	0人
	退院後1か月以内に在宅医療を必要としない患者(死亡退院含む)		10人	1人	3人	1人	2人	1人	1人	1人
	退院後1か月以内に在宅医療の実施予定が不明の患者		49人	8人	8人	8人	6人	2人	5人	12人
			277人	41人	8人	65人	16人	70人	77人	0人

看取りを行った患者数  
※在宅療養支援病院の届出を行っている病院のみが報告する事項です。

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
直近1年間で在宅療養を担当した患者のうち、医療機関以外での看取り数(年間)	患者の死期まで見守り臨終に付きそうことを看取りといたします。値は、平成26年7月から平成27年6月までの1年間に在宅療養を担当し、看取りまで支援した患者について、その看取りを行った場所や数を示しています。	0人							
うち自宅での看取り数									
うち自宅以外での看取り数									
直近1年間で在宅療養を担当した患者のうち、医療機関での看取り数(年間)		0人							
うち連携医療機関での看取り数									
うち連携医療機関以外での看取り数									

[TOPへ戻る](#)



◆医療内容に関する情報（手術、リハビリテーションの実施状況など）

手術の状況

				(項目の解説)								施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
手術総数	臓器別の状況	皮膚・皮下組織	手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	153件															
		筋骨格系・四肢・体幹		*															
		神経系・頭蓋		23件															
		眼		*															
		耳鼻咽喉		21件															
		顔面・口腔・頭部		21件															
		胸部		*															
		心・脈管		*															
		腹部		20件															
		泌尿系・副腎		66件															
		性器		*															
		歯科		*															
		全身麻酔の手術件数																	
臓器別の状況	皮膚・皮下組織	41件																	
	筋骨格系・四肢・体幹	*																	
	神経系・頭蓋	14件																	
	眼	*																	
	耳鼻咽喉	0件																	
	顔面・口腔・頭部	17件																	
	胸部	*																	
	心・脈管	*																	
	腹部	*																	
	泌尿系・副腎	*																	
	性器	*																	
	歯科	*																	
	胸腔鏡下手術			胸部を切り開くことはせず、胸部に開けた小さな穴から、胸部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「きょうくきょうかしゅじゅつ」と読みます。値はこの手術を行った患者数です。															
腹腔鏡下手術			腹部を切り開くことはせず、腹部に開けた小さな穴から、腹部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「ふくくきょうかしゅじゅつ」と読みます。値はこの手術を行った患者数です。	*															
内視鏡手術用支援機器加算			内視鏡手術ロボットを用いて前立腺がん手術を行った患者数です。	0件															

がん、脳卒中、心筋梗塞、分娩、精神医療への対応状況

(がん)		(項目の解説)	施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
悪性腫瘍手術		がんを取るための手術です。値は手術を行った患者数です。	18件							
病理組織標本作製		患者の身体から採取した細胞や組織等を観察し、病気の確定診断をすることを病理診断といいます。病気の早期発見や治療方針の選択、治療効果の判定等にも役立ちます。値は病理診断に必要な標本(細胞の組織片等)を作成した患者数です。	51件							
術中迅速病理組織標本作製		病気の良性・悪性の判断や切除範囲を決めるため、手術中に病理診断をすることを術中迅速診断といいます。そのための病理組織標本作製を、手術中に行った患者数です。	0件							
放射線治療		がんに放射線を当てる(照射する)ことで、がんを縮小させる治療を放射線治療といいます。値は放射線治療を行った患者数です。	*							
化学療法		化学療法は、抗がん剤によりがんを殺したり、小さくしたりする治療法です。値は化学療法を行った患者数です。(ここでいう抗がん剤とは、総務大臣が定める日本標準商品分類における「8742 腫瘍用薬」に指定されている医薬品のことを指します。)	14件							
がん患者指導管理料1及び2		がんの患者が、診断結果や治療方法を理解し、納得のいく治療方針を選択できるよう、専門的な研修を受けた医師や看護師が、文書での説明や相談、指導を行っていることを示す項目です。値は相談や指導を行った患者数です。	0件							
抗悪性腫瘍剤局所持続注入		がんの患者に対し、カテーテル(細い管状の医療器具)等を用いて動脈や静脈等に抗がん剤を持続的に注入する治療です。値はこの治療を行った患者数です。	0件							
肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入		肝臓がんの患者に対し、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて肝動脈内に抗がん剤を投入する治療方法を、抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入といいます。同時に、動脈の血流を遮断する物質を注入することで、肝臓のがんを殺す治療です。値はこの治療を行った患者数です。	0件							

(脳卒中)		(項目の解説)	施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
超急性期脳卒中加算		脳梗塞の患者に対し、発症後速やかに薬剤を投与して血栓を溶かす治療を行ったことを示す項目です。値はこの治療を行った患者数です。	0件							
脳血管内手術		脳血管内手術は、脳動脈瘤等の患者に対し、頭蓋骨を切り開く開頭手術をせず、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて脳の血管の内側から患部を治療する手術です。値はこの手術を行った患者数です。	0件							

(心筋梗塞)		(項目の解説)	施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
経皮的冠動脈形成術		経皮的冠動脈形成術は、狭心症や心筋梗塞等の患者に対し、胸部を切り開く開胸手術をせず、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて心臓の冠動脈を血管の内側から治療する手術です。値はこの手術を行った患者数です。	0件							

(分娩)		(項目の解説)	施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
分娩件数(正常分娩、帝王切開を含む、死産を除く)		分娩を行った患者数です。	*	*	0件	0件	0件	0件	0件	0件

(精神医療)		(項目の解説)	施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
入院精神療法(Ⅰ)		入院精神療法は、精神疾患の患者に対し、治療計画に基づいて患者の精神面に対して施す治療です。値はこの治療を行った患者数です。	*							
精神科リエゾンチーム加算		精神疾患の患者に対し、精神科医や専門の看護師等が共同し、多職種チームとして診療を行っていることを示す項目です。値はこうした診療を行った患者数です。	0件							

重症患者への対応状況

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
ハイリスク分娩管理加算	母体や胎児が分娩時に危険な状態になるリスクが高い妊産婦に対し、帝王切開などの緊急処置を視野に入れた分娩管理を行っていることを示す項目です。値はこうした分娩管理を行った患者数です。	0件							
ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	上記のような妊産婦について、他院と共同で診療を行っていることを示す項目です。値は、他院から患者の紹介を受け、紹介元の医師と共同して自院で分娩管理を行った患者数です。	0件							
救急搬送診療料	患者を救急車等で医療機関に搬送する際、診療上の必要性から、その救急車等に医師が同乗して診療を行ったことを示す項目です。値はこのような搬送中の診療を行った患者数です。	0件							
親血的肺動脈圧測定	親血的肺動脈圧測定は、急性心筋梗塞など心機能が低下した患者に対し、肺動脈内にカテーテル(細い管状の医療器具)を挿入して肺動脈の血圧を測定する検査です。値は検査を行った患者数です。	0件							
持続緩徐式血液濾過	持続緩徐式血液濾過は、急速に腎臓の機能が低下した急性腎不全等の患者に対し、持続的に(時間をかけて)血液から余分な水や毒素・老廃物を除去して体液調整を行う処置です。値は処置を行った患者数です。	0件							
大動脈バルーンパンピング法	大動脈バルーンパンピング法は、急性心筋梗塞等の患者に対し、バルーン(風船)のついたカテーテル(細い管状の医療器具)を心臓に近い大動脈に挿入し、心臓の動きに合わせてバルーンを拡張・収縮させることで心臓の冠動脈への血流を維持し、心臓の働きを助ける手術です。値は手術を行った患者数です。	0件							
経皮的心肺補助法	経皮的心肺補助法は、重篤な心不全等の患者に対し、人工心肺装置で血液循環を維持しながら、心肺機能の回復を図る手術であり、外科的に胸部を切り開くこととはせず、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて行うものです。値は手術を行った患者数です。	0件							
補助人工心臓・植込型補助人工心臓	補助人工心臓は、重篤な心不全等の患者に対し、人工的に血液循環を行う装置を装着することで、弱った心臓を休ませ、その回復を図る手術です。値はこの手術を行った患者数です。	0件							
頭蓋内圧持続測定(3時間を超えた場合)	頭蓋内圧持続測定は、重症な頭部外傷やくも膜下出血等の患者に対し、特殊な測定機器を頭蓋骨内部に置くことで、脳周辺の圧力を持続的に測定する検査です。値は検査を行った患者数です。	0件							
人工心肺	人工心肺は、心臓手術などの際に、一時的に心臓と肺の機能を代行する装置です。値は人工心肺装置を使用した患者数です。	0件							
血漿交換療法	血漿交換療法は、劇症肝炎、肝不全、膠原病等の患者に対し、患者の血液から病気の原因となる物質が含まれる血漿を分離して廃棄し、新しい血漿を患者の血液に補充する治療法です。値は処置を行った患者数です。	0件							
吸着式血液浄化法	吸着式血液浄化法は、劇症肝炎や肝不全等の患者に対し、血液を吸着材に通すことで血液中に蓄積した老廃物や毒素等を除去する治療法です。値はこの処置を行った患者数です。	0件							
血球成分除去療法	血球成分除去療法は、潰瘍性大腸炎やクローン病等の自己免疫疾患の患者に対し、血液から自分の組織を攻撃する白血球を除去する治療法です。値はこの処置を行った患者数です。	0件							
「7対1入院基本料」、「10対1入院基本料」、「看護必要度加算」、「一般病棟看護必要度評価加算」、「急性期看護補助体制加算」、「看護職員夜間配置加算」、「看護補助加算1」の届出を行っている場合における、									
A得点2点以上の患者割合		9.3%20.5%25.2%18.6%35.1%26.0%							
B得点3点以上の患者割合		68.4%97.7%28.9%89.3%43.2%33.5%							
重症度、医療・看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合		9.3%20.4%12.4%18.6%19.1%11.8%							
「地域包括ケア病棟入院料」、「地域包括ケア入院医療管理料」の届出を行っている場合における、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合									
A得点2点以上の患者割合									
B得点3点以上の患者割合									

	重症度、医療・看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合											
「回復期リハビリテーション病棟入院料1」の届出を行っている場合における、 一般病棟用の重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合												
	A得点2点以上の患者割合											
	B得点3点以上の患者割合											
	重症度、医療・看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合											

救急医療の実施状況

		(項目の解説)	施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
院内トリアージ実施料		夜間や休日、深夜に受診した救急患者に対し、その緊急度に応じて、診療の優先順位付け(院内トリアージ)を行っていることを示す項目です。値はトリアージを行った患者数です。	0件							
夜間休日救急搬送医学管理料		夜間や休日等の救急搬送に対応していることを示す項目です。値は、深夜、休日等に救急車や救急医療用ヘリコプター等で搬送され、診療を行った患者数です。	0件							
精神科疾患患者等受入加算		夜間や休日等に救急搬送される急性薬物中毒の患者に対応していることを示す項目です。値は、夜間や休日等に搬送された患者のうち、過去6月以内に精神科の受診歴がある患者や、急性薬物中毒(アルコール中毒は除く)と診断された患者数です。	0件							
救急医療管理加算1及び2		意識障害、昏睡等の重篤な状態の患者の緊急入院を受け入れていることを示す項目です。値は休日又は夜間に緊急入院し、救急医療を行った患者数です。	59件							
在宅患者緊急入院診療加算		在宅での療養中に病状が急変し、入院が必要となった場合に、患者の意向を踏まえた医療が引き続き提供されるよう、他の医療機関と連携する取組を行っていることを示す項目です。値は、他の医療機関の求めに応じて緊急入院を受け入れた患者数です。	0件							
救急搬送患者地域連携紹介加算		医療機関間の連携により、救急医療機関の負担を軽減し、緊急入院を円滑に受け入れるための取組を行っていることを示す項目です。値は、緊急入院で受け入れた患者を、連携先の医療機関に転院させた人数です。【関連:救急搬送患者地域連携受入加算】	0件							
休日に受診した患者延べ数		休日(日曜、祝日、年末年始)に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。	801人							
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数			125人							
夜間・時間外に受診した患者延べ数		夜間・時間外(医療機関が表示する診療時間以外の時間(休日を除く))に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。	1,019人							
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数			219人							

救急車の受入件数	救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数です。	394件	
救命のための気管内挿管	気管内挿管は、気道確保を行うためのチューブ等を口や鼻から挿入する処置です。値は救命措置として気管内挿管を行った患者数です。	*	
体表面ペースティング法又は食道ペースティング法	体表面・食道ペースティングは、胸部または食道内に電極をおき、電極を介して心臓を電気刺激する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
非開胸的心マッサージ	非開胸的心マッサージは、胸部を開く等の手術を伴わない、一般的な心臓マッサージを行う処置です。値は処置を行った患者数です。	*	
カウンターショック	カウンターショックは、心停止した患者に対し、AEDや専門の医療機器等を用いて、心臓に電気ショックを与え、正常な状態に戻す処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
心膜穿刺	心膜穿刺は、心臓を覆う心膜に針等を刺し、心臓に貯まった水を排出する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
食道圧迫止血チューブ挿入法	食道圧迫止血チューブ挿入法は、食道静脈瘤からの出血に対し圧迫止血の目的でチューブを挿入する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
地域連携診療計画管理料	大腿骨頸部骨折や脳卒中の患者について、転院・退院後の治療を担う地域の医療機関や介護施設が治療計画を共有し、連携して診療・ケアに取り組んでいることを示す項目です。値は、診療計画のもと、他の医療機関や介護サービス事業所に転院・退院させた患者数です。【関連：地域連携診療計画退院時指導料（Ⅰ）】	0件	

急性期後の支援、在宅復帰の支援の状況

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	5階センター 急性期
救急・在宅等支援(療養)病床初期加算及び有床診療所一般病床初期加算	急性期の治療を終え、状態がある程度安定した患者や、自宅・介護施設等での療養中に発熱などにより、入院が必要となった患者を受け入れる取組を行っていることを示す項目です。値はこうした患者を受け入れた数です。	0件							
救急搬送患者地域連携受入加算	医療機関間の連携により、救急医療機関の負担を軽減し、緊急入院を円滑に受け入れるための取組を行っていることを示す項目です。値は、他の救急医療機関に緊急入院した患者の転院を受け入れた人数です。【関連：救急搬送患者地域連携紹介加算】	0件							
地域連携診療計画退院時指導料(Ⅰ)	大腿骨頭部骨折や脳卒中の患者について、転院・退院後の治療を担う地域の医療機関や介護施設が診療計画を共有し、連携して診療・ケアに取り組んでいることを示す項目です。値は、診療計画のもと、連携先の医療機関から患者を受け入れ診療を行った人数です。【関連：地域連携診療計画管理料】	0件							
退院調整加算1(一般病棟入院基本料等)	退院後に十分な介護を提供できる体制がない等、退院が困難な状況にある患者に対して、社会福祉士等が退院に向けた計画を策定し、必要な支援をしていることを示す項目です。値は退院支援を行った患者数です。	0件							
退院調整加算2(療養病棟入院基本料等)		0件							
退院時共同指導料2	退院後に在宅で療養する患者について、入院している医療機関の医師等が退院後の在宅医療を担う医師や訪問看護事業所等の看護師等と連携し、共同で患者に指導や説明を行っていることを示す項目です。値は、患者が入院している医療機関が、指導や説明を行った患者数です。	0件							
介護支援連携指導料	退院後に導入することが望ましい介護サービス等について、入院中の医療機関と介護支援専門員(ケアマネージャー)が連携し、共同で指導や説明を行っていることを示す項目です。値は指導や説明を行った患者数です。	0件							
退院時リハビリテーション指導料	退院の際に患者に対し、病状や退院後に生活する家屋の構造、介護力等を考慮し、リハビリテーションの観点から指導や説明を行っていることを示す項目です。値は指導や説明を行った患者数です。	24件							
退院前訪問指導料	入院期間が1か月を超えると見込まれる患者に対し、円滑に退院できるよう、患者の家に訪問した上で、その病状や退院後に生活する家屋の構造、介護力等を考慮し、在宅での療養に必要な指導を行っていることを示す項目です。値は指導を行った患者数です。	0件							

全身管理の状況

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
中心静脈注射	中心静脈注射は、薬剤や栄養を長時間、安定的に供給する目的等で、血液量が多く流れも速い心臓近くにある太い静脈(中心静脈)に注射する行為です。値はこの注射を行った患者数です。	23件							
呼吸心拍監視	呼吸心拍監視は、重症な心機能障害や呼吸機能障害をもつ患者に対し、その呼吸や心拍数の状況を持続的に監視する検査です。値はこの検査を行った患者数です。	126件							
酸素吸入	酸素吸入は、呼吸器疾患等で酸素が欠乏した状態の患者に対し、高濃度の酸素を吸入させる処置です。値はこの処置を行った患者数です。	130件							
観血的動脈圧測定(1時間を越えた場合)	観血的動脈圧測定は、重症患者の血圧観察のために、動脈に管を挿入し、持続的に血圧を測定する検査です。値はこの検査を行った患者数です。	14件							
ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄	ドレーン法は、手術後等の患者に対して、脳腹や腰部等に管を入れ、体内に溜まった消化液、膿、血液や浸出液などを体外に排出する処置です。胸腔・腹腔穿刺は、脳腹、腹部に針を刺し、洗浄、注入および排液をする処置です。値はこれらの処置を行った患者数です。	37件							
人工呼吸(5時間を越えた場合)	人工呼吸は、呼吸の力が弱くなった患者に対し、機器を使って呼吸の補助をおこない、過剰にたまった二酸化炭素を排出し、酸素の取り込みを促す処置です。値は5時間以上継続的にこの処置を行った患者数です。	*							
人工腎臓、腹膜灌流	人工腎臓は、透析機器(人工膜)を通すことによって、血液中の老廃物や余分な水分を取り除き血液を浄化する処置です。腹膜灌流(ふくまくかんりゅう)は、患者の腹膜(腹部の臓器を覆う膜)を介して血液中の余分な水分や老廃物が透析液側に移動する処置です。値はこれらの処置を行った患者数です。	18件							
経管栄養カテーテル交換法	経管栄養カテーテル交換法は、口からの栄養摂取が難しく、胃や食道にカテーテル(細い管状の医療器具)を挿入し、直接栄養を送り込む処置を行っている患者について、そのカテーテルを交換する処置です。値はこの処置を行った患者数です。	0件							



リハビリテーションの実施状況

(項目の解説)			施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
疾患別リハビリテーション料		患者の疾患や状態に応じたリハビリテーションを行った患者数です。	82件							
	心大血管疾患リハビリテーション料	心筋梗塞、狭心症、慢性心不全等の患者に対し、必要な心機能の回復、疾患の再発予防等を図るために行うリハビリテーションです。値はリハビリテーションを行った患者数です。	0件							
	脳血管疾患等リハビリテーション料	脳梗塞、脳出血等の患者に対し、必要な基本動作能力、言語聴覚能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	24件							
	運動器リハビリテーション料	脊椎損傷による四肢麻痺、関節拘縮(かんせつこうしゆく：関節の動きが制限された状態)等の患者に対して、必要な基本的動作能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	50件							
	呼吸器リハビリテーション料	肺炎、肺腫瘍、慢性の呼吸器疾患等の患者に対し、症状に応じて必要な呼吸訓練等を行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	*							
	障害児(者)リハビリテーション料	脳性麻痺、発達障害等の患者に対し、状態に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件							
	がん患者リハビリテーション料	がんの患者に対し、治療の過程で生じた筋力低下、障害等の改善を目的として行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件							
	認知症患者リハビリテーション料	重度の認知症患者に対し、必要な認知機能や社会生活機能の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件							
早期リハビリテーション加算(リハビリテーション料)		治療開始後の早期段階(治療開始日から30日以内)からリハビリテーションを行っていることを示す項目です。値は早期段階のリハビリテーションを行った患者数です。	61件							
初期加算(リハビリテーション料)		治療開始後の初期段階(治療開始日から14日以内)からリハビリテーションを行っていることを示す項目です。値は初期段階からリハビリテーションを行った患者数です。	47件							
摂食機能療法		食べる機能(摂食機能)が落ちている患者に対し、症状に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	*							
リハビリテーション充実加算(回復期 リハビリテーション病棟入院料)		より多くのリハビリテーションを集中的に提供できる病棟であることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件							
体制強化加算(回復期リハビリテーション病棟入院料)		患者の早期の機能回復や退院を促進するために、専門の医師や社会福祉士を配置していることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件							
休日リハビリテーション提供体制加算(回復期 リハビリテーション病棟入院料)		休日にも平日同様リハビリテーションを提供できるような職員配置がなされていることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件							
入院時訪問指導加算(リハビリテーション総合計画評価料)		医師、看護師等が、患者が退院後に生活する自宅や施設等を訪問し、その住環境や家族の状況等を踏まえたリハビリテーション実施計画を策定していることを示す項目です。値はこれにより計画が策定された患者数です。	0件							

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
リハビリテーションを実施した患者の割合		入院患者のうち、疾患や状態に応じたリハビリテーションが実施された患者の割合です。							
平均リハビリテーション単位数(1患者1日当たり)		上記の患者に対し行ったリハビリテーションの平均的な量を示す値です。20分実施した場合を1単位とみなします。							
過去1年間の総退院患者数		平成26年7月から平成27年6月までの1年間に、退院した患者の数と、日常生活機能評価に応じた患者の数です。	0人						
	うち入院時の日常生活機能評価10点以上の患者数	日常生活機能評価とは、寝返り、起き上がりなど日常生活で行う基本的な動作について、「自分でできる」「できない」を評価する指標です。自力での動作が難しいほど、点数が高くなります。	0人						
	うち退院時の日常生活機能評価が、入院時に比較して3点以上(※)改善していた患者数 ※回復期リハビリテーション病床入院料1の場合は4点		0人						

## 長期療養患者の受入状況

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
療養病棟入院基本料1. 2 (A～I)	療養病棟は、主として、長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病棟です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件							
褥瘡評価実施加算(療養病棟入院基本料、有床診療所療養病棟入院基本料)	褥瘡(床ずれ)は、寝たきりなどにより、身体の一部が長時間にわたりベッドと接触することで血行が悪くなり、皮膚組織等が壊死する症状です。この項目は、褥瘡が特に生じやすい状態にある患者について、褥瘡の予防や処置の観点から必要な取組を行っていることを示します。値はそのような状態にある患者数です。	0件							
重度褥瘡処置	この項目は重度化した褥瘡に対してケアを行っていることを示しています。値はこのようなケアを行った患者数です。	0件							
重症皮膚潰瘍管理加算	皮膚潰瘍は、皮膚や粘膜が傷ついた際に、糖尿病等の疾患による血行不全等のために傷が治らず、組織が壊死する症状です。この項目は、重度な皮膚潰瘍に対して計画的、継続的なケアを行っていることを示します。値はケアを行った患者数です。	0件							

## 重度の障害児等の受入状況

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
難病等特別入院診療加算	難病患者や感染症患者等の入院を受け入れていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件							
特殊疾患入院施設管理加算	重度の障害者、難病患者等の入院を多く受け入れている病棟であること(全入院患者の約7割)を示す項目です。値はその患者数です。	0件							
超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算	出生時から小児期までに生じた障害により、現在も非常に重症な状態が続く患者を受け入れていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件							
障害児(者)リハ(再掲)	脳性麻痺、発達障害等の患者に対して、状態に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件							
強度行動障害入院医療管理加算	知的障害や自閉症等であって、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を繰り返し行う特徴のある患者の入院医療を行っていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件							

[TOPへ戻る](#)

◆過去1年間の間に病棟の再編・見直しがあった場合の報告対象期間

(項目の解説)		施設全体	2階本館・5階センター 急性期	2階新館 急性期	3階本館 急性期	4階本館 急性期	3階センター 急性期	4階センター 急性期	8階センター 急性期
過去1年間の間に病棟の再編・見直しがあった場合の報告対象期間	平成26年7月1日～平成27年6月30日の期間内に病棟の再編・見直しを行ったことで、過去1年間分の状況を報告することが困難な場合に、平成27年7月1日時点の病棟単位で報告が可能な過去の期間です。		-	-	-	-	-	-	-

[TOPへ戻る](#)